夏まきニンジン

種まき後は乾燥注意

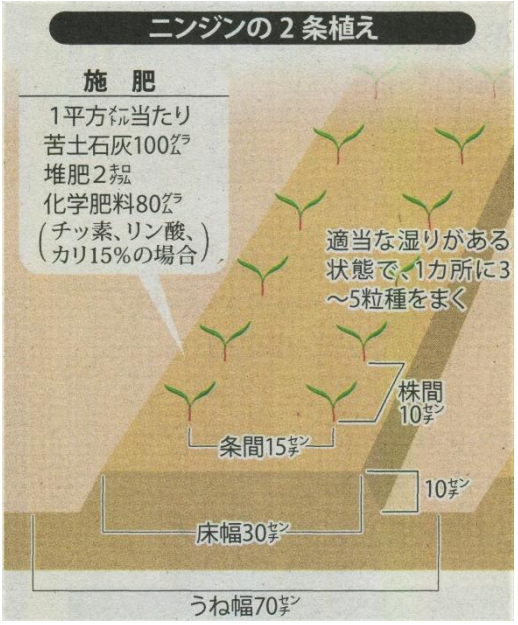
橋口　健一郎

ニンジンはアフガニスタン周辺が原産地とされ，そこから東西２つのルートに分かれて東洋種と西洋種の２系統が日本に伝わりました。東洋種は先が細く，深い紅色をしています。現在唯一出回っているのは，関西の「金時にんじん」です。一方，西洋種はヨーロッパやアメリカを経由して，日本に入ってきており，現在は根の長さが１５～２０㌢，根の先が丸くつまった五寸型が主流となっています。

ニンジンのオレンジ色の色素は，カロテンで体内でビタミンＡに変わります。油に溶けやすい物質で，バターや油といっしょに調理すると，カロテンの吸収利用が促進されます。

今回は露地栽培の夏まき年内どり作型について紹介します。

ニンジンは耕土が深く有機質を多く含んだ軟らかくふかふかした土壌を好み，**連作が可能**です。キュウリなどの後に栽培する場合は，根にコブができるセンチュウ被害がでていないか確認し，コブが見られる場合は畑を替えましょう。



耕うんは「また根」（岐根）を防ぐために４回以上行い，十分に砕土します。８月上旬の種まきで１１月中旬頃，８月下旬の種まきで１２月下旬頃には収穫できます。

畑には１平方㍍当たり，苦土石灰１００㌘，堆肥２㌔，化学肥料８０㌘（チッ素，リン酸，カリ成分１５％の場合）を目安として施します。うね幅は，２条植えでは７０㌢（床幅３０㌢），４条植えでは１１０㌢（床幅６０㌢）とし，１０㌢程度の高さでうね立てします。は種間隔は株間１０㌢，条間１５㌢とします。

この時期は高温乾燥による発芽ふぞろいが問題になるので，降雨の後やかん水後の適当な湿りがある状態で種まきします。１カ所３～５粒まき，５㍉～１㌢ほど覆土して鎮圧します。乾燥防止のため切りわらやもみ殻を薄く敷くのも効果が高いです。

本葉５，６枚頃までに１，２回かけて１本に間引きします。間引き時期が早すぎると風雨の影響を受けやすく，遅すぎると茎葉が徒長したり，根同士が巻き付き根が傷つくので気をつけましょう。追肥は，最終間引き後１平方㍍当たり２０～３０㌘を通路部分に施用し，土寄せを行いますが，青首防止のため芯芽が埋まらない程度に株元まで十分寄せます。

発芽後はネキリムシなどの食害に気をつけ，早めに防除を行いましょう。収穫は根重が１８０㌘以上となる時期を目安とします。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室長）

平成２８年７月１４日（木）／南日本新聞